

# SHINC LUB75

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570

fax/03-3486-1450

URL:http://www.esna.co.jp



O-HOUSE 全景

撮影:新 良太

## 今月のトーク/monthly talk

### 豊かな時間

写真は5月に竣工した、O-HOUSEの全景です。遠く海を望める高台の敷地に、普通の住宅とはスケールが違う、美術館のような邸宅が建ちました。周囲の恵まれた景色を楽しむと同時に、知人、友人をもてなしたいという、建て主ご夫妻の思いがいたるところに溢れています。設計は、芦原太郎建築事務所です。

都心で精力的にお仕事をされているO様は、今回、都会を離れた風光明媚な地に自宅を建てられました。新幹線通勤であれば、それほど時間がかからずに都心に到着することが可能です。(もちろん交通費がかかりますが)

O-HOUSEのような規模でなくても、自宅を都心から離れた地域に建てられる中高年の方々は増えています。書店には、「田舎での暮らし方」とか「海外暮らし」というタイトルの雑誌、書籍が多く並べられています。ゆとり世代に入った人たちが、これまでとは仕事のスタイルを変えて、生活の中で必要なものに優先順位をつけて、自分らしい人生を作っていくという動きの表れです。

一方で、バブル崩壊以後、住宅取得を手控えていた層が、都心の分譲マンションを購入するケースが増え、都心での持ち家率は、その他の地域に比べて上昇しているそうです。その3分の1が共同住宅ということで、マンション建設ラッシュの牽引力が伺えます。仕事も忙しく子育ても大変な年齢のうちには都心で暮らさざるを得ません。

また、高齢になったからこそ、都心の便利でコンパクトな住居を選択される方たちもいます。わずらわしい家事、近所づきあいから解放さ

れ、自分の趣味を充実させたい、あるいは子や孫と同居しないまでも一定の距離は保っておきたいという人たちはです。

しかし、ある程度自分の裁量で物事が決められるようになれば、大きめの住宅を思い切って遠くに持つことが可能です。

O様のご自宅に流れているコンセプトは、おもてなしをしたいという心の豊かさです。O-HOUSEを訪れた人が誰でも楽しくO様とゆったりとした時間を過ごせるように、というプランなのです。

政府は今、仕事最優先の社会から家庭重視への転換を掲げています。これまでは日本全体が不景気で不安にさらされてきたのですが、先送りになってしまった少子化問題や、地方活性化の問題、自然保護や伝統文化の継承など、早急に解決しなくてはならない問題が山積みです。社会全体を、会社から家庭、地域へ戻すことが大切だと提言しています。

弊社でも、なるべく残業時間を減らすよう効率的な仕事の仕方をして、担当現場の竣工後にはまとまった休暇をとるよう、役員は若い社員に勧めています。なかなかその通りにはいかないものですが、なんとか時間の都合をつけてもらいたいものです。

お金はともかく、時間は誰にでも等分に与えられているものです。

今、あなたにとって豊かな時間とは、誰とどのように過ごすことか、考えていらっしゃるでしょうか。

O-HOUSE

もてなしの心を大切にしたいゆとりの邸宅



①

古くからの別荘地として山の上に位置するこの敷地は、プライベートを十分に堪能する場所として建て主が見つけられた自然豊かな場所である。二区分分のゆとりある傾斜地に対し、周辺の魅力を最大限に生かしながらも共存しあえる設計を心がけた。

地下1階部分のエントランスには、友人らが大勢訪れることを想定し、ゆとりを持った駐車スペースを設けている。道路に面する外観は、立派な外壁を設けて関係を遮断するのではなく、建物自体が周辺に対して静かに閉じている形とした。これにより、通常の住宅にはない「美術館」のような外観となっているが、コンクリート壁面に杉の特殊型枠を採用し、テクチャーを与えることで、ただの巨大な塊ではない、ヒューマンな仕上げとなった。

地下1階はオーディオ・ブレイクルームとした。大型スクリーンとプロジェクターを備えた映画館並のスペースとなっている。1階は家族の居住スペース、2階にはゲスト用のパーティリビング、囲炉裏や展望バスルームを備えた浴室棟を配し、この2つの棟を挟んで前面に海が望める屋上テラスとなっている。エレベーターは外付けでガラス張りとなっており、別境界からの展望を楽しむことも可能とした。2階部分の鉄骨造のゲスト棟と浴室棟は、コンクリート造の地下1階・1階部分と対照的に、黒い巨大なオブジェが外の豊かな景色に向かって飛翔しているイメージとなっている。

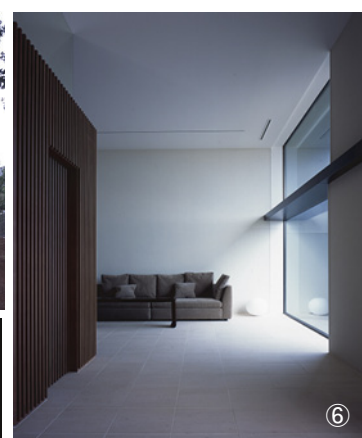
ゆとりある老後を視野に入れ、家族や知人をもてなす時間を大切に過ごしたい、という真の豊かさを熟知した建て主の住まい方がここに実現されることであろう。(芦原太郎氏談)



②



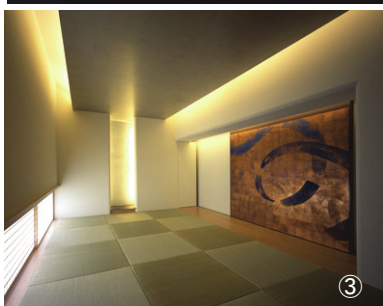
④



⑥



⑦



③



⑤

所在地：静岡県 用途：専用住宅  
 構造：RC造+S造 規模：地下1階、地上2階  
 設計：芦原太郎 / 芦原太郎建築事務所  
 竣工：2006年5月 撮影：新良太

①2階パーティリビングを擁するゲスト棟。テラスにもバーベキューテーブルが設けられている。②1階住居スペースのリビングダイニング。中庭の景色を大きく取り込んでいる。オープンキッチンの右手奥に階段室、2つの個室が連なる。③2階パーティリビングに隣接する和室。モダンにアレンジされた床の間、収まりも通常の和室とは異なる。間接照明が漆喰の壁に映える、有名作家の手になる襖絵が海外からの訪問客を魅了する。④南西庭より建物全景を臨む。エレベーターで来客は直接テラスへ上ることができる。⑤ゲスト用の浴室。腰の高さに開けられた窓から、木々、遠方には海の景色が楽しめる。⑥2階ゲストリビング。高い天井、海が臨める大きな開口部などダイナミックな空間の中央に、木壁に囲まれたパントリーキッチンが入っている。⑦ゲスト棟の上に乗せたエントランス部分の夜景

下馬2丁目 P. J.



①東側外観。大きな開口部から世田谷公園を臨むことができる。  
 ②303号室。ロフトがあり、キッチンカウンターも開口部に面している。③屋上バルコニー。



②



③

周りの環境を取り込んだ、開放的なプラン

通りを挟み目の前には枝ぶり豊かなシンボルツリーの如き大木。さらに三宿通りの向こうには世田谷公園が一面に広がる。この景色を取り込み、屋内でありながら「オープンテラスのような開放感」を大きなコンセプトのひとつとして試みる。

ファサード方立の極小と、ガラスの最大寸法を追い込むことにより、結果、窓の向こうの光に溢れたグリーンが目飛び込む。境界の存在が不明確になり、まるで外にいるかのような錯覚を起こさせてくれる。

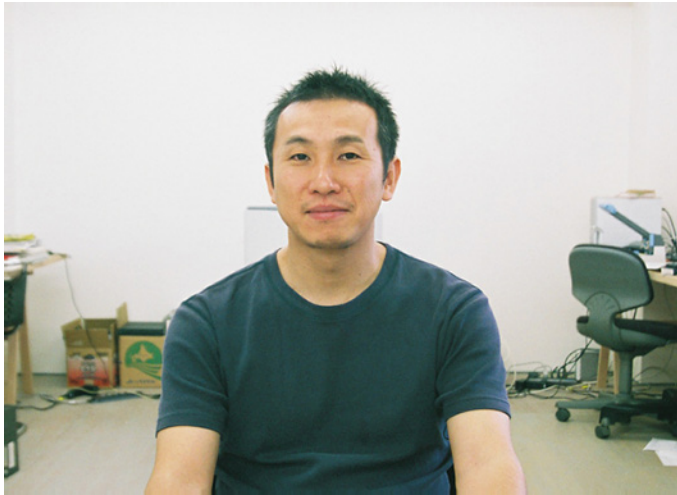
1階を半地下とすることで、1、2階の店舗としての良好なコンディションを確保。

施主のこだわりである3階住居部の階高にもこれが大きく寄与し、ワンルームでありながらロフト、屋上デッキの3層を成立させ、居室の使用法の多様化に貢献。

住宅と店舗の複合用途でありながら、その機能を損なうことなく、シャープな外観が創出できたのは、施主、監修の理解とアドバイスの賜物であり、「コラボレート」の可能性を再認識させられた。

(大森伸一)

所在地：世田谷区 用途：複合住宅 構造：RC造 規模：地上3階  
 設計：大森伸一 竣工：2006年4月  
 撮影：①②ナカサアンドパートナーズ+③間瀬 憲隆 / Studio M (ミュー)



新しく移転したオフィスにて

多田脩二 profile

1969年 愛媛県生まれ  
 1992年 日本大学理工学部建築学科卒業  
 1995年 日本大学大学院修士課程修了  
 1995年 佐々木睦朗構造計画研究所入社  
 2004年 多田脩二構造設計事務所設立

主な作品

中国木材 名古屋事業所(設計:福島加津也+富永祥子建築設計事務所)

主な受賞

2005年 第15回松井源吾賞受賞  
 第16回JSCA賞受賞

今月は、練馬集合住宅、T&K邸の構造設計を担当されている多田脩二氏にお話をうかがいました。

—多田さんは、2005年、優れた構造設計者に贈られる「松井源吾賞」を受賞されました(松井源吾賞は今回で終了)。同じくJSCA賞も受賞されていますが、受賞作品はどんな建物ですか。

多田:「中国木材 名古屋事業所」という木材会社の事務所です。プロジェクトそのものはコンペでした。120mm x 150mm x 3000mm の木材を一面に敷き並べ、それらにケーブルを通してプレストレスを導入することにより一体化するという新しい構法で、ばらばらのものを圧縮して、あたかも1枚の板のようにしているものです。仕上げ材、断熱材としても機能するものです。とても技術的に難しいものであるにも関わらず、工期も非常にタイトでしたが、施工会社、職人、設計者が一体となってさまざまな検証を得て竣工することが出来ました。

—構造設計を目指されたのはいつ頃からですか。

多田:学生ときは意匠デザインに興味がありましたが、ある本との出会いがあって、構造をやりたくなったのです。1990.11月号の建築文化の「建築の構造デザイン」という構造特集号です。その雑誌に日本を代表する色々な構造家、例えば木村俊彦先生とか川口衛先生、齋藤公男先生などが紹介されていました。構造の考え方によって大胆な建築を成立させていることを知って感銘を受けました。いずれの先生方も構造設計に対する思想を持っているのです。将来デザインを手がけるにしても、「構造を知っていると強いな」と感じてこの世界に飛び込みました。中に入ったら、どっぷりと構造の世界につかかってしまいました(笑)。

—卒業後は、佐々木睦朗事務所に入所されました。

多田:スタッフは当初自分ひとりでした。先輩でいらした池田(昌弘)さんはスタッフというよりパートナーとして既に独立されていました。今思えば、本当に良かったのは、難易度の高い建築を担当させてもらい、佐々木先生にマンツーマンで指導してもらったことです。ただし、怖いんですよ(笑)。人間としての生き方もですが、建築に対する設計の姿勢が厳しい。「構造設計というより建築そのものをどう考えるか」という根本的なことを実務を通して徹底的に教わりました。共に設計される意匠の方は伊東豊雄さんとか妹島和世さんとかでしょう。建築家がいろいろと考えることに対して、どのように向き合うかという姿勢がすごい。

—チャレンジ精神が旺盛な建築家の方ばかりですよ。

多田:むしろ建築家に対して佐々木先生の方がどんどん入り込んで提案していく。通常のように建築家が「こういうことは構造的にできますか?」と訊ねる問いにただ答えるだけでなく、さらに一歩踏み込んでいく感じですよ。もちろん建築家の考えを尊重しながらも、構造の合理性と独自の美学によって成立させます。言うのは簡単、でも実際にはとても難しい事です。

—スタッフは、ほんとに気が抜けないのでしょうかね。

多田:当然毎日深夜まで働いていますし、休日もあまりない状態でした。せつかくの年末の休みも1年の疲れがどとどで毎年よく高熱で倒れていました。佐々木事務所は5年制。毎年1人やめたら1人入る、というペースでしたが、結局9年おりました。

—そして2004年、事務所を設立なさったのですよね。

多田:最初は仕事もほとんどなく、少し前まで大学の先輩でもある大塚真

吾さんの事務所を間借りさせてもらっていましたが、やっと最近、仕事がコンスタントにある状況になってきました。主なところで竣工したものは、一つの敷地に4人の建築家がコラボレートした玉川台のプロジェクトで、そのうちの若松均さんとみかんぐみの住宅、そして練馬集合住宅(施工:辰、Shin Club74掲載)などをやらせていただきました。

—練馬集合住宅は面白いピロティですね。

多田:基本的には中央のコアで水平力に抵抗する構造でSRC造としています。一見普通のピロティのように見えますが、周囲の鋼管柱は、160Φの外形に板厚16mmの厚いものをつかっています。基本的にこの鋼管柱は鉛直力のみでの支持が良いのですが、万一予期しない規模の地震が起き、中央部のコアのコンクリートにひび割れなどが入り始めても、そのときに廻りの柱が曲げ抵抗して効き始めるという設計としています。

ちょっとした構造の提案をしつつも、クライアントに対しては何よりも安全が大事です。ただし、「絶対に壊れないものを作る」というのはある意味不可能です。建築基準法を満たす事は最低限の当然の事ですが、その法規もある仮定のもとで成立しています。少々予期しないことが起きても、「フェイル・セーフ」、二重の意味での安全性を確保ができればよいと思います。余力をさらに持たせるとかそういうこともしていけないかと。

—住宅でも、大胆なデザインで構造設計の先生がアドバイスされる場面が多くなっていると聞きますが、最近ではどのような住宅が多いですか?

多田:基本的にローコスト住宅が大半で、中でも木造とRCの壁式構造が多いです。今、RCの壁式といえども、建築家の提案される案は壁が少ないものや、立体的に複雑なもの、あきらかに地震時に建物がねじれ変形するような建物が多いです。それを成立させるためにはいろいろと工夫がいるし、それなりにコストがかかります。また基本的に、2階建ての木造住宅は意匠の設計者だけで設計は可能ですが、なるべく壁や柱をなくすようなデザインや、床・梁を薄くしたいような仕事があります。ただし壁が少なくなると、構造的に建物を成立させるために行うことがいろいろと出てきますし、手間もかかります。接合部が特に難しく、金物を使い始めると途端にコストがはね上がります。

—コストがあがることをご理解いただかないと大変ですね。

多田:構造躯体にコストがかかりすぎて再設計を行ったり、またコストばかり言って、陳腐な建物になってつまらないですし・・・。

—先日着工したT&K邸では密実なコンクリートを打つため、工事部全体で総合コンクリートサービスの岩瀬氏を招き、改めて勉強会を開きました。

多田:前述したようなRCの壁式の設計を行う場合は、壁をある程度厚くする必要があります。しかし住宅には住宅のスケールがありますから、あまり逸脱しすぎるのも考えものです。そうなるコンクリートそのものの強さを引き出す必要性が出てきます。

またRCの設計を行って現場を訪れる度に、いつもフラストレーションがたまります。鉄筋の配筋のひどさやかぶりのとれてないもの、設備配管の多さ、ジャブジャブのスランプによる打設。それにもかかわらずジャンカやヘアクラックなどなど・・・。今一度ひび割れない、しっかりとコンクリートをどうやったら打てるかを追求してもらいたいですね。そういうニーズにしっかりと応えてくれれば、コストも理解されてくる。また、職人さんたちのレベルを再び引き上げるいい機会になるのではないかと思いますね。

—どうもありがとうございました。

五月八日(月)  
辰に中途採用が決まり、三ヶ月、初めての現場がいよいよスタートする。

敷地は世田谷の、まだ田園風景の残る静かな住宅地。建物は八角形のRC造の住宅だ。これまで約八年、分譲マンションなどの施工を手がけてきてそれなりにRC造の施工はわかっているつもりだ。しかし、八角形の建物の型枠はさすがに経験がない。

五月九日(火)

夕方、本社で全社員出席のもと講習を受ける。講師は岩瀬文夫氏である。施主、構造設計の先生も出席している。コンクリート打設を改めて復習するのだ。会社では以前にも、建築雑誌の連載を参考に何回か勉強会を開いていたそう。しかし、今日は下請けの協力業者も集合している。監督の自分たちが説明するよりは、よほど説得力があるだろう。

五月十日(水)

根伐り、掘削。昨日に続き、夕方本社へ向かう。月に一度の全体会議である。



五月十一日(木)雨、

引き続き、根伐り。レベルコンクリート打設の計画書を作成。本来はこのくらい小さい現場では計画書までは作らないが、きちんと検討するため、コンクリートを流す位置、順番、ポンプの種類、スランプ、空気圧、コンクリート強度、外気温、温度などを書き込み、未記載の確認を行う。講習の内容を実地に移すのである。



寺井 誠治  
密実なコンクリート打設  
に一丸となって臨む

五月十二日(金)

地下のスラブの施工では、特別な条件がある。「サーマスラブ」という輻射暖房設備を設置するのだ。床暖房のような電気パネルを土間の下の土の中に直接埋め込み、内装には断熱材を使用しないのである。密実なコンクリートが求められる理由の一つだ。メーカーの指導者と設備会社と配管を行う。

五月十三日(土)

現場は、下から砂十センチ、サーマンセンチ、碎石十センチが入っ

た。レベルを揃えるための機械をいれ、土工が三人でならず。週明けの月曜日はいよいよコンクリート六センチ分を入れる。

五月十五日(月)

レベルコンクリート打設。朝八時より現場に集まったのは、パイプレータ四名、左官二名、ポンプ二名、辰のK営業部長、I工事部次長、現場の竣工を終えたばかりのW主任、M主任である。もちろん先日の講師岩瀬氏も具体的な指導をするため待機していらっしやる。スランプ十二センチに挑戦だ。

作業を終え、左官屋はやればできると感慨深げだった。岩瀬氏の現場の直接指導により「良いコンクリートを協力してつくろ」という意識が高まっていると強く感じた。職人をコントロールするのは、なかなか大変だ。特に年配の人は、自分の方法を否定されたり、直されたりするのを嫌うが、現実やつてみて、完成したのを見ると「難しいと言われたものもできる」と納得する。いい人ばかりだ。次の打設も楽しみみである。

1979年生まれ 北海道出身

建設会社を退社の後、今年3月末、辰に入社。  
趣味: 映画鑑賞、音楽鑑賞。

TOPICS/INFORMATION

講習会「よりよいコンクリート構造物を造るために」 5月9日 本社



岩瀬文夫氏。  
著書に「ザ・生コン」「ひび割れのないコンクリートのつくり方」ほか。



T&K 邸の施工にあたり、改めて密実なコンクリート造るため講師に(株)総合コンクリートサービスの岩瀬文夫氏を迎え、勉強会を開催しました。コンクリートの性質、打設方法、養生方法、ひび割れ防止対策や異常事態の対処法など、実践的な指導に、参加した協力業者の方々も真剣に聞き入っていました。

「辰和会 ゴルフコンペ」開催 5月21日  
東京ノースヒルズ・ゴルフコース

社員および関係者で構成する「辰和会」のゴルフコンペを行ないました。普段仕事に追われ、全員練習不足の感が否めませんでした。リラックスできた1日でした。

(幹事: 内海)



「MOCHIDA HOUSE 新築工事」 地鎮祭 5月24日

昨年、西大井の弊社施工現場近くにお住まいだった施主が、自邸を依頼されました。洗練されたデザインの家です。

構造: RC造 地上3階  
用途: 専用住宅+賃貸1室  
設計: 山崎雅雄建築研究室  
完成予定: 2006年11月



「西蒲田6丁目マンション 新築工事」 地鎮祭 6月5日

東急池上線に隣接した賃貸マンションです。

構造: RC造 規模: 地上4階  
用途: 賃貸集合住宅+店舗  
設計: 上村博之/ (有)アーキビジョン  
完成予定: 2007年2月



編集後記

・上記の講習会では、明治時代に造られた小樽の防波堤が今でも堅牢さを維持しているという話も伺いました。工事重機や薬剤などが現在ほど進歩していない当時の施工でも、コンクリートの本質に基づいた適切な手順で密実なコンクリートは造られていたのです。

(株)辰 通信 Vol.75 発行日 2006年6月10日 編集人 松村典子 発行人 森村和男

